

IMG テニスアカデミー研究 ～その実態と問題点、利用する側の注意点～

IMG tennis academy research ～The actual condition and problem, the notes of the side to be used～

1K10C455-2 山田 杏奈
主査 太田章 先生 副査 友添秀則 先生

【目的】

IMG（ニックボロテリーテニスアカデミー）とは、アメリカ・フロリダ州にあるプロ育成のテニスクラブのことであり、様々な厳しいプログラムで組まれていて、過去に世界で活躍したマリア・シャラポワ選手や現在世界ランキングを上げている錦織圭選手が所属している。

（以下IMGと略す）本研究の目的は、私自身が中学生の頃にIMGのプログラムに参加した為、その実態と問題点、利用する側の注意点とテニス経験者のIMGに対する考え方を比較し、IMGが有効であることに導き出したい。

【方法】

方法としては、体育会テニス部に所属する大学生にアンケート調査を行い、現在日本でプロ選手として活躍するMさんにインタビューをした。IMGは、全ての環境が揃っていて、様々なシステムを選手が理解し、両親も理解し、選手がそこでの体験を今後活かすことが出来ていれば自然と結果がついてくると予想した。留学に行きたい気持ちはあるが、金銭面的に難しく親に話せないという選手の意見が多ければ仮説通りだと言える。

【結果】

全体で62人に調査をし、9人は留学の経験があり、残りの51人は留学の経験がないという結果に至った。（2名未回答）又、少し参加してみたいという選手が多い中で強くなれると思うかどうかという問いでは強くなれるという意見が平均的に多かった。特に、留学の願望がそこまで高くはないところも問題であり、これまでそこまで留学に対しての情報が少なく、人々にはそこまで重要視されているものではなかったのだ。自分自身の可能性の問いでは、過半数の人が強くなれる可能性があるという意見となった。願望は高くはないが、強くなれる可能性が高い部分に過半数の意見が集まってきていることから、そこまで選手として強くなりたいという願望が全体的に少ないことが分かった。確かに学生でありテニスで生きていこうという選択をしている訳ではないので現実をみてそちらに意見が傾いたのであろう。

【考察】

分析結果より、IMGなどのテニス留学に参加してきた選手は少なく、留学してみたいという強い願望を持つ選手も過半数には満たないことが分かった。テニス留学を通して強くなれると思っても金銭面や親に話す勇気がなく終わってしまう人が多いのだ。あとは語学の変化もあるということ、語学に不安がある人も多いという結果が出た。一人一人の意見の違いはあるが多かったのは、「他の国のプレーを見てみたい」という意見が多かった。やはり日本だけで活動しては、他の国のテニスを知る機会もなく視野を広く出来ないということが欠点にあがる。世界に出る前に日本との差を理解して自分に足りないものを見つけて目標にするのが一番良いベクトルを向いている。そして、自分次第で良くも悪くもなるわけであって難しい判断を求められることもあるが自分の意志で進んでいくしかない。ここでの経験を活かせるのもその後の活動次第になる。人それぞれのテニスに対する考え方やとらえ方を明確にし、良い方向へと導いていけるようにすることが一番求められている。選手が留学に対してどう思うかが重要であって、世界を目指したいのかも今後のその子の人生設計にも重要になるのだ。両親は、その子供を支援ことは間違いないし、その選手の夢の可能性を広げてあげることが両親の役目であろう。又、今までと同じ環境の元、練習するのと新しい環境の中でやれるのでは気持ち的にも引き締まり、さらに上を目指すのであればそのような方法も必要になってくる。小さいうちに様々な環境でプレーして見ることで視野を広く戦うことも出来るようになる。両親も指導者もその道へと導いてあげることが出来なくては難しい現実なのだ。そしてこのIMGの環境など素晴らしいものはいくつかあるがそれだけではなくIMGのビジネスに対する考え方などは改める部分であるのだ。